

上関集落で組織している上関資源保全隊(石山昭平代表)が、六本杉集落開発センター脇に「ホタル遊歩道」を整備し、地元のほか、村内外から大勢の方が観賞に訪れました。これは、集落開発センター脇に、ホタルが多く乱舞していることから、保全隊が大勢の人からホタルを鑑賞してもらおうと、農地・水・環境保全事業の一環で整備したものです。

ホタルを間近で観賞

上関資源保全隊が
遊歩道整備



六本杉集落開発センター脇の「ホタル遊歩道」

遊歩道は、七月一日に保全隊のメンバーが整備し、歩きやすいように砂利を敷き、安全のため支柱とロープ、常夜灯を設置。また、ベンチも置

かれていて、とても優雅な空間に仕上がっています。

石山昭平代表は「大人も懐かしさを感じて大変喜んでい

ます。六月中旬ころから見られるので、来年ぜひ来てみてください」と話していました。

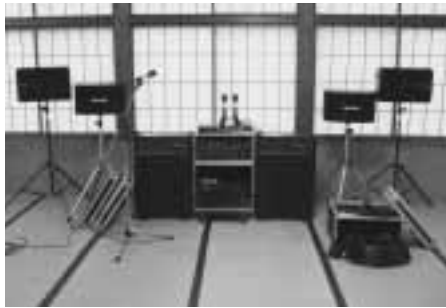
大島集落

宝くじ助成で

備品整備

大島集落では、自治宝くじの助成金を受けて、集落センターに備品を整備しました。

整備した備品は、アンプやスピーカー、CDカセットデッキなど音響設備十五品目。伝信男区長は「様々な行事などで活用したいと考えています。また、村や他集落の行事



整備された音響設備一式

などでもぜひ活用してもらいたい」と話していました。

七夕飾り



▶ 彩り豊かな飾り付け
(女川保育園)

県展

入選おめでとう いづこもす

第六十四回新潟県美術展覧会(県展・新潟日報社主催)

の写真部門で、量山久弥さん(川北小学校教頭・村上市)が、見事入選を果たしました。

作品は、四月上旬に岩船神社裏山の椿の原生林に沿って、高台へ上がって行く小径で、伸びた椿の枝が天井となりトンネルのような場所を撮影したもの。左手の椿林を貫いて夕刻の光が横からさし、小径

【入選作品】 題目「春への坂道」

量山久弥さん(川北小学校教頭・村上市)



入選作品は、8月下旬まで村民会館でご覧いただけます。

に椿の一本一本の影が縞模様を描いていて、子ども頃は椿の木が今ほど大きくなく、このような光景は見る事ができなかつたため、感慨を覚えながら撮影したそうです。量山さんは「カラーで撮影しましたが、濃く暗い緑ばかりなのでモノクロにしてみました。それが印象の強い作品になったのだと思います」と、感想を話していました。

地域を知ろう

安角小学校の
おいしい楽しい
体験学習



安角小学校では、「七ヶ谷自慢」として、七ヶ谷地域の魅力を学ぼうと、毎年体験学習が行われています。

六月八日は、春の山菜を学ぼうと一年生から四年生までの五人が、加藤輝子さん（鮎谷）の畑でワラビ採り。また、



祖母の皆さんと笹団子を作ろうとモギの葉も摘みました。五十嵐大夢さん（四年・上川口）は「ワラビ採りをさせてもらってうれしかったです。たくさん採れて楽しかったです」と笑顔で話していました。また、六月二十五日は、果樹栽培のようすを学ぼうと全校児童で佐藤善一さん（蔵田島）のサクランボ畑でサクランボ狩りを体験。もぎ立ての果実を味わいながら、大満足の体験学習となりました。

▶ 6/25 佐藤善一さんのサクランボ畑でサクランボ狩り
6/8 加藤輝子さんの畑でワラビ取り

投稿

「みんなで考えよう」

地球温暖化

平田時夫（滝原）

森林の変化

日本の国は「木」の国で、国土の七割が森林です。例えば、オランダやイギリスでは国土の二割にも達していません。スイスでも国土の四分の一のことです。関川村では約七五%が林野で、緑豊かな大自然に恵まれ、森の中の暮らしでした。

昔から日本人は、木の家に住み、木の道具を使って生活しました。難しい地球温暖化論を言い出した人は、一九八八年のジェームズ・ハンセンという人だそうです。「エネルギーと文明の関係」池田清彦氏より）
関川村ではいち早く平成十五年二月、地域新エネルギービジョン報告書が発行され、温暖化防止の認識を深める努力がなされていて、「エコ」の村です。しかし、現在の文

明社会の生活に慣れた私どもの生活の中で、省エネに取り組む運動はこれからであり、芽生えていないのが現実です。

それはあまりにも大きな問題であり、政治的にみた場合、二酸化炭素（CO₂）などの温室効果ガスの削減について、二〇二〇年までの中期目標は二〇〇五年比で一五%減とする発表がされています。京都議定書で日本は、一九九〇年から二〇一二年までに六%削減することを義務付けられたのですが、現状では逆に八%ほど増加していて、目標達成は極めて困難とされています。国内の森林を再生させ、二酸化炭素吸収分を増やすことも取り組みに揭げています。今年、テレビや新聞、ラジオなど、地球温暖化防止活動の積極的な報道が目につくよう

になりました。

資料が少し古くなりますが、エコに取り組む関川村の平成十五年のデータで、一世帯あたりのエネルギー使用状況の内訳と全国平均との比較では、使用熱量（電力・灯油・LPG）が全国平均の二倍になっています。このことは、関川村が豪雪地帯であり、電力や灯油の消費が多いことから一概の判断はできませんが参考までに……。

先般、何万冊もある新潟市内の有名な書店に行つたところ、地球温暖化問題の参考書は数少なかったのですが、面白そうな一冊を買いました。今、人気上昇中の漫談家・綾小路きみまろさんの一冊です。その中で「まずは奥様の燃費を改善しましょう」「地球は今大変なのです。ご主人の家庭は氷河期化。六月から世のお父さんはクールビス。奥様の燃費は三十分料理して三時間食事、三十分歩いたかと思えば三時間テレビ（一部抜粋）」何かとこれから省エネ時代ですが、経費節減が求められる家庭省エネは、奥様が実権を握っているように思います。